

非結核性抗酸菌症に続発した *Exophiala dermatitidis* による肺黒色真菌症の 1 例

◎興梠 陸人¹⁾、川上 洋子²⁾、小村 美玖¹⁾、上村 梨花¹⁾、芹川 理江子¹⁾、中園 朱実¹⁾、竹内 正明¹⁾
産業医科大学病院¹⁾、産業医科大学病院、ひびき臨床微生物研究会²⁾

【はじめに】黒色真菌の 1 種である *Exophiala dermatitidis* は、土壌や加湿器などの湿潤環境に広く生息しており、近年、易感染者の日和見感染として重要視されている。また、嚢胞性線維症 (cystic fibrosis; CF) を基礎疾患とする症例が多いとされている。今回我々は、CF のない非結核性抗酸菌症患者に続発した *E. dermatitidis* による肺黒色真菌症を経験したので報告する。

【症例】60 歳代女性。基礎疾患：悪性関節リウマチ (Stage IV)。2 年前、*Mycobacterium avium* による非結核性抗酸菌症 (NTM) の診断で、胸腔鏡下右上肺葉切除を施行され、外来フォロー中であった。フォロー中に右中葉に新規陰影を認めたため、精査目的で検査入院となった。主訴は特になし。

【微生物学的検査】気管支内視鏡検査が施行され、気管支肺胞洗浄液が細菌検査室に提出された。

①塗抹検査：グラム染色 (フェイバー法) にて酵母様真菌 (1+)、好中球 (>25/視野) を認めた。

②培養：CO₂、好気培養 2 日目に、TWIN プレート 9、

BTB 寒天培地、クロモアガーカンジダ培地全てにオリブ色のコロニーの発育を (2+) 認めた。その他特記すべき菌の発育は認めなかった。スライドカルチャーを実施し、培養 1 週目にビン型のアネライド形成、培養 2 週目に有隔菌糸の形成を認め、*Exophiala* 属が疑われた。温度発育能 (室温、37°C、42°C) を確認した結果、*E. dermatitidis* である可能性が示唆された。

③同定：MALDI-biotyper (Score 1.82)、VITEK MS (信頼度 99.9%) の測定結果は *E. dermatitidis* であった。スライドカルチャー、温度発育能などの結果より、*E. dermatitidis* と同定した。

【考察】NTM に続発する肺真菌症は *Aspergillus* 属が多く、本菌が起因菌の肺黒色真菌症は稀である。黒色真菌の同定は、市販のキットも無く形態や形態以外の性状が重要であるため、黒色真菌の特徴を理解しておく必要がある。また、培養に時間を要するため、臨床との密な情報共有も重要であると考え。連絡先：093-603-1611 (7336)